

2012年10月15日

16-1：ふれあい散歩道・・・43、「春もやや・・・」・・・芭蕉翁

・ 建立：年代不詳

・ 建材：不明

・ 場所：横浜市港北区綱島台17-5 飯田助知氏 庭（東急東横線綱島駅下車 徒歩約15分）  
（専修大学図書館蔵書「石に刻まれた芭蕉」 広中孝著：株式会社明治書院発行：「芭蕉俳句大成 岩田九郎氏著」より）この句碑は全国で97か所あり最多は長野県9・東京都7・埼玉県6・その他32府県にあります。



（句 碑）

春もやゝ

気色ととのふ

月と梅（続蕨）

（考）元禄6年春の作。季語は春。許六の「旅館日記」に「梅月」と題して出ている事が頼原氏によって報告された。それによれば元禄6年1月中頃許六旅亭における俳画の遊びの際の画賛であった。

（解説）「やゝ」は漸くの意。

一句は、春になって、一日一日その趣をまして来るが、この頃は月もおぼろになって光もなごやかになり、梅も少しずつほころびそめて来た。「春もようやくけしきがととのって来たこと」であるという意である。一句の調子に落ちつきがあり、静かに自然の推移を見もって、その姿をぴったりと一句に読みとったという感じがする。たとい画賛であったとしても、それは芭蕉の体験がもとになっているのであるから、決して単なる空想の着想ではない。「けしきととのう」というのは、抽象的な説明でもなく、主観的な表現でもない。

しっかりと自然の姿を見きわめた動かぬ感じである。（上・下図：飯田助知氏自宅）



2013年2月28日

16-2 「春もやや・・・」・・・芭蕉翁



飯田助知氏宅の「春もやゝ」の句碑

(句 碑)

春もやゝ

気色ととのふ

月と梅 (続蕘)



庭に咲く「梅」



「天真爛漫」飯田一九画伯 書



自宅前の「濠」



表 門 (長屋門)

(追記) 2013年2月27日横浜市港北区ボランティアガイド講座企画に参加が出来た結果「芭蕉の句碑」の取材出来ました。区役所地域振興課の関係者には感謝申し上げます。「ありがとうございました」

## 16-3

### (飯田家の来歴)

飯田家は今から700年以上前から現在の場所にあり、最初は小泉姓でした。小泉姓が10代続いた後、1600年代の初めに飯田姓となりました。

曾祖父【※飯田家第11代助太夫快三】は明治21(1888)年から神奈川県議員(～明治27(1)年、明治22(1889)年からは市町村制に伴い大網村初代村長をつとめました。(～明治28(1897)年。橘樹郡農会長なども歴任しました。齒に衣着せぬ言い方などから、新聞紙上で『神奈川の三奇人』と称せられたうちの一人でした。また、書、絵画、篆刻、俳句などにも才能を発揮しました。

祖父【※第12代助夫(すけお)助太夫快三の長男】は、大網村村長(大正6(1917)年～昭和2(1927)年、神奈川県議員(議長)、衆議院議員をつとめました。県議員になったあとでも昔からの名残で地元ではずっと「村長」と呼ばれておりました。また、鶴見川水害予防組合初代議長として鶴見川の改修にも尽力しています。

飯田家は、「鶴見川の治水」が代々の命題なのです。

大正15(1926)年の東急東横線開通の前には、祖父ところに五島慶太【※東京急行電鉄(株)の元会長で、事実上の創業者(1882・1959)】がよく来ていて、土地の買収や沿線開発について相談をしていたようです。助太夫快三の三男、九一は東京美術学校【※現東京美術大学】で彫刻、日本画を学び、卒業後も川合玉堂【※明治から昭和にかけて活躍した日本画家(1873・1957)】に師事して絵の勉強続け、俳画【※俳句と日本画を一緒に描く芸術】というジャンルを確立した人といわれています。第一回横浜文化賞(昭和27(1952)年、第5回神奈川文化賞(昭和31(1956)年)をそれぞれ受賞しています。

父【※第13代助丸】は、戦後横浜市議員、神奈川県議員(副議長)、祖父の跡を継いで鶴見川水害予防組合議長をつとめています。

私は昭和13(1938)年生まれの73歳。浅野中学校・高校卒で、網島東の池谷さん【※通信第5号で特集した池谷光朗氏】は先輩にあたります。国際基督教大学で国際関係史、比較教育学を学び、卒業後は高校で世界史を教え、2校で校長をつとめて平成10(1998)年に退職し、現在は教育研究所、教育図書館などを運営する(財)神奈川県高等学校教育会館の理事長をしています。国際基督教大学を受験した際、かぜから発熱し試験中に倒れてしまいました。待機されていた校医の日野原先生【※日野原重明：医師、聖路加国際病院理事長】の診断で肺炎と分かり、先生の治療と最新薬の処方により3、4日ほどで回復することができました。

・長屋門は江戸後期に建てられたもので、現在まで3度大修理をしています。

・主屋は明治21(1888)年に全焼し、翌22(1889)年に再建。江戸時代は幕府の要人が立ち寄った休憩所として使われていました。

・蔵は全部で5つありました。貴重品を貯蔵していた土蔵は太平洋戦争の空襲で焼けてしまった。

(飯田家14代当主：飯田 助知氏「歴史を生かしたまちづくり通信No7」より抜粋)